

J Aおちいまばり 第7次中期計画最重点実施項目進捗管理表（平成28年度～30年度）

営農経済事業

重点方針		最重点実践方策	代表的な施策	3年間（平成28年度～平成30年度）の目標	平成29年度の目標値	達成度%	主な取組事項	今後の方針・課題	担当部署
ビジョン・目指すべき姿		農業者の所得増大と地域農業の活性化に向け、平成30年度での販売高68億円をめざします。そのため農業振興計画（ochimaレインボープラン）でより詳細な具体策を実施し、平成32年度での販売高70億円をめざし「元気な地域農業の復活！！」に取り組めます。							
1	地域農業を守るグループ単位の営農経営支援体制の構築	農業者の育成と経営支援を通じた農業経営者の育成	農業経営支援体制の構築に向けて、担い手の農業簿記記帳代行事業への取り組み人数を増大します。	平成28年度は700人、平成29年度は710人、平成30年度は720人をめざします。	年次710人	99.0%	連続3期の蓄積されたデータに基づいた経営分析診断報告書について地区別の青色申告部会の会議に合わせて説明会を開催しました。	記帳代行事業において蓄積したデータを基に担い手農家の皆さんの経営相談が出来る体制を整えます。	営農企画課
			地域社会への農業提案として、新たな担い手や生活者に向けて、本気の農業体験、みんなの農業講座、担い手意見交換会等を開催します。	各種提案活動の年間12回実施を3年間継続します。	年次12回	25.0%	いちごの収穫体験の実施、新規就農者の営農相談、担い手の法人化の相談に対応しました。	引き続き農業体験などを企画したり、集落営農リーダー実践研修会を開催し、担い手候補の掘り起こしを行います。	営農企画課
2	所得増大につながる生産・販売・購買の新たな取り組み	農業者の所得増大に向けた重点品目の設定・生産から販売までの取り組み	【きゅうり】の生産販売拡大に取り組みます。	基準値から栽培面積70a増加を3年間継続します。	基準値より140a増13.5ha	36.0%	新規農家の確保に向けて推進を行いました。	相場が下がったときは推進が難しくなりますが、シーズンを通して作付けを拡大の提案をしていきます。	営農指導課
				基準値から販売高1,630万円増加を3年間継続します。	基準額より3,260万増22,100万	12.2%	積極的な販促活動による消費拡大を図りました。	需給バランスによって販売価格が変動するため、正確な事前情報を発信して末端の売り場作りを提案していきます。	営農指導課
			【里芋】の生産販売拡大に取り組みます。	基準値から栽培面積150a増加を3年間継続します。	基準値より300a増11.5ha	100.0%	新規農家の確保に向けて推進を行いました。	順調に作付けが拡大しているので、継続して栽培指導を強化していきます。	営農指導課
				基準値から販売高681万円増加を3年間継続します。	基準額より1362万増5,902万	-	拡大する生産量を安定して販売するため販促活動に努め消費拡大のPRを行っています。	伊予美人のファンを作る為、広域選果の利便性を生かして全国に出荷していきます。	営農指導課
			【はれひめ】の生産販売拡大に取り組みます。	基準値から出荷量90t増加を3年間継続します。	出荷量基準値より180t増600t	-	着果確認を行い月毎の講習会を開催しました。	指導員と生産者が一体となって高品質と安定数量を確保し銘産地を目指します。	営農指導課
				基準値から販売高1,944万円増加を3年間継続します。	基準額より3,888万増14,256万	-	生産振興している特選品の増大に備え、ギフト対応等の契約販売を強化し、本年産生育状況にあわせた階級等の商談を行いました。	契約販売数量の確保に向け、各共選場や指導員と情報共有を密にし、生産量や品質の変動を考慮しながら商談を行います。農家の方には安定した品質と数量の確保をお願い致します。	営農販売課
			【紅まどんな】の生産販売拡大に取り組みます。	基準値から出荷量62t増加を3年間継続します。	出荷量基準値より124t増387t	-	収量拡大と高品質生産に向けて、講習会を開催しました。	高級果実としての品質確保にむけて、栽培管理を徹底するための講習会を開催します。	営農指導課
				基準値から販売高3,547万円増加を3年間継続します。	基準額より7,094万増22,058万	-	生産量の増大に備え、ギフト対応等の契約販売を強化し、本年産生育状況にあわせた階級等の商談を行いました。	契約販売数量の確保に向け、各共選場や指導員と情報共有を密にし、生産量や品質の変動を考慮しながら商談を行います。農家の方には安定した品質と数量の確保をお願い致します。	営農販売課
			【甘平】の生産販売拡大に取り組みます。	基準値から出荷量77t増加を3年間継続します。	出荷量基準値より154t増372t	-	栽培面積の拡大・維持に努める。	適地適作を前提に隔年対策・裂果対策を農家個々への指導の徹底を行う。	営農指導課
				基準値から販売高3,339万円増加を3年間継続します。	基準額より6,678万増12,411万	-	生産量の増大に備え、ギフト対応等の契約販売を強化し、本年産生育状況にあわせた階級等の商談を行いました。	契約販売数量の確保に向け、各共選場や指導員と情報共有を密にし、生産量や品質の変動を考慮しながら商談を行います。農家の方には安定した品質と数量の確保をお願い致します。	営農販売課
			【キウイフルーツ】の生産販売拡大に取り組みます。	基準値から出荷量6t増加を3年間継続します。	出荷量基準値より12t増673t	-	現状の面積維持をしながら新規栽培農家を獲得するため提案を行いました。	新規園地には苗木・棚の補助を行い面積拡大に努めます。輸入花粉においても助成を行います。	営農指導課
				基準値から販売高263万円増加を3年間継続します。	基準額より526万増27,957万	-	契約販売を強化し、本年産生育状況にあわせた階級等の商談を行いました。	契約販売数量の確保に向け、各共選場や指導員と情報共有を密にし、生産量や階級流れの予測を行いながら商談を行います。農家の方には数量の確保をお願い致します。	営農販売課
			【花木】の生産販売拡大に取り組みます。	基準値から栽培面積80a増加を3年間継続します。	基準値より160a増2ha	69.5%	高齢化に対応した軽量作物として推進を強化しました。	需要が拡大していますが、まだまだ生産量が追いついていないことに加え、数量面で運送での問題があるため、東予地区での広域出荷を目指し花木生産者を増やして行きます。	営農指導課
				基準値から販売高523万円増加を3年間継続します。	基準額より1,046万増1,277万	-	年間供給できる仕組みを作り市場への販促回数を増やしました。	需要に対応できる生産量が確保できるまで、正確な情報発信をおこない、安心して生産し販売できる環境を維持していきます。	営農指導課

J Aおちいまばり 第7次中期計画最重点実施項目進捗管理表（平成28年度～30年度）

営農経済事業

農業者の所得増大と地域農業の活性化に向け、平成30年度での販売高68億円をめざします。そのため農業振興計画（ochimaレインボープラン）でより詳細な具体策を実施し、平成32年度での販売高70億円をめざし「元気な地域農業の復活！！」に取り組みます。								
重点方針	最重点実践方策	代表的な施策	3年間（平成28年度～平成30年度）の目標	平成29年度の目標値	達成度%	主な取組事項	今後の方針・課題	担当部署
	生活者への情報発信を通じた信頼関係の構築による『おちいまばりブランド』の創造	マーケットイン(実需者ニーズ)に基づく農家への契約販売を実施し、グローバル戦略と地産地消の取り組みに努めます。	取扱高について、平成28年度は1.7億円、平成29年度は1.85億円、平成30年度は2億円をめざします。	取扱高1.85億円	23.0%	学校給食や飲食店、ホテルや病院など、県内外への発送のなかで、新たな飲食店との取引を伸ばしました。	今治産の農産物需要があるため、取引量を増やすことで、農産物の消費拡大につなげていきます。また、取引先が増えることによる、食材の安定確保と荷造り発送業務体制整備を早急に行なう必要があります。	直販開発課
	生産資材の安価供給や新しい価値を提案できる購買事業への取り組み	大口値引き対応等、目に見えて実感できる農家経営支援策によって、大口供給や予約購買を充実し安価供給に取り組みます。	目に見えて実感できる農家経営支援策を年間3品目以上、3年間継続します。	年間3品目以上	-	4/10～4/15苦土石灰・ペソコゼブの特売を実施しました。	7/13～7/15にラウンドアップ大型規格特売予定・油かす特別値引きを予定しています。また、新たに8月中旬ザクザク大型規格特売予定しています。	購買店舗課
		大口値引き対応について、年間4品目以上を3年間継続します。	年間4品目以上	50.0%	ファイト30袋以上・苦土石灰20袋以上50袋以上特別値引き予約実施しています。	高度化成（米麦用）品目集約による大幅値引き対応を予定しています。（予約）担い手対策として肥料1車取り（600袋）による大口値引き対応を行います。	購買店舗課	
3	機動的な営農経済事業体制の確立	出向く営農指導体制の強化に取り組みます。	TACの訪問件数について、月50件達成率100%を3年間継続します。	月50件達成	100.0%	高齢農家が多くなり園地での面談が難しくなる中、計画的に訪問を行いました。	内部のトレーナーからの面談回数を増やし経営相談に対応が出来るTACの育成を行います。	営農指導課
		継続的に事業推進できる「人間力」のある営農職員の育成に努めます。	指導技術向上のための栽培試験実施について、取組率100%を3年間継続します。	取組率100%	-	個々の知識向上の為、各講習会・研修会に参加しました。	技術指導、経営指導など総合的に農家組合員の対応が出来る人材の育成に努めます。	営農指導課
		部門間連携による総合的な農家支援体制の構築を図ります。	作業前点検の実施について、年次300件(5名×1人60件)を3年間継続します。	年次300件(5名×1人60件)	65.0%	トラ26件、コン3件、田70件、小物124件と、点検の意識付けが出来つつあります。	今後も予防整備、格納点検に力を入れて、農機のコスト低減、延命治療に努めます。	農業機械課